

平成29年度



白川小だより

第5号 平成29年7月20日(木)

「いのちは、時間？」

学校長 井戸 さえ子

「じっくり たっぷり ていねいに」を合い言葉に取り組んで来た1学期でした。学校としての主な成果は、
○3年生以上は、手作りの辞書バックを携帯し、日常的に国語辞書を利用するようになったこと。

○読解力問題集を刷新し、朝の時間の学びが充実してきたこと。

○図書館リニューアルや1年から4年までが毎週1時間、図書館読書を行うことで図書館へ足繁く通う児童が増え、貸出冊数が3ヶ月で3,040冊となり、昨年より増加したこと。

○「わくわく班」遊びを月3回に増やし、集団遊びがたっぷりできるようになったこと。

○「あいさつ」「歯みがき」の意識が高まるように、委員会が活発に活動できたこと。

○歯みがきアプリを活用し「5分間歯みがき」がどの学年でも定着したこと。

などが挙げられます。これまでも取り組んで来た活動に新たな創意を加えることで、子ども達の目の輝きが違ってきます。これから迎える夏休みも「じっくり たっぷり ていねいに」取り組むことを確かに持ち、力を蓄える休業日となることを願っています。

先日亡くなられた日野原 重明先生は、著書「いのちのおはなし」のあとがきを「自分のもっている自分の時間。それが自分のいのち。きみたちはこれから、そのことをよく考えて生きていってほしいと思います。」と結ばれています。1日1日の時間の中にいのちがありいのちを無駄にしないということは、時間を無駄にしないこととも書かれています。



子どもたちを成長させる夏休みの様々な体験も「いのちの時間」があつてこそ。尊い「いのち」を守ることをご家庭においても話していただき「やりたいこと」が実現できる夏休みを期待しています。